

(非営利) 教育支援グループ「E d. ベンチャー」

2007年度 事業報告

(2007年9月1日～12月31日)

生活格差、教育格差の拡大、固定化が進行しているといわれる現状の中でこそ、弱い立場の子どもたちは学校を必要とし、かれらはもちろん、それを支える保護者、教師、学校への手助けが必要である。そんな思いから「E d. ベンチャー」の構想は生まれました。そしてその思いを持つ人々は少数ではなかったということが、9月1日の立ち上げ総会開催につながりました。そして半年という短い期間ではありますが、無事に初年度の活動を終えることができました。

設立初年度ということもあり、運営の安定、会の活動の周知、会員募集に努めました。運営の安定を図るため、事務所を開設し事務局において各活動間の連絡調整が円滑になるようにするとともに、スタッフ・ブログの開設、活動報告会の毎月開催を通じて情報交換を密に行いました。活動の周知、会員募集については、ホームページを公開して、活動の予告や報告を行うことを一つの方法としました。さらに、研究会や学習会でパンフレットを配布しました。

立ち上げ以降の具体的な活動は、教師の学習会や外国人支援活動など、既存の活動を再編成して行うだけでなく、学校に対する支援を充実させるため、教育講演会、教師相談、調査援助、ホームページ支援、教育ボランティアなど、新たな活動を準備しました。そして少数ではありますが支援の要請があって対応し、具体的に活動を展開しました。また既存の学習会や研究会などはテーマ選びや周知方法を工夫し参加呼びかけに努めました。外国人支援は、単なる一地域の活動から、他活動との連携を通じて、全市的な視野での活動として位置づきました。

とはいえまだ生まれたばかりの組織であり、活動の周知は十分ではありません。既存の活動には安定した参加者人数が見られるものの、新たな活動に関しては、学校や先生からの支援の要請は必ずしも全ての活動にあった訳ではなく、件数もごく少数でした。さらに、安定した運営をするためにも、活動に参加していただける会員の募集にも今後一層力を入れる必要があります。

1. 学校支援活動

1) 教師・保護者支援部

①理論学習会

活動概要：学校で起こっている問題、学校をとりまく社会の状況など、学校に関わって考えておく必要があるトピックを取り上げて学習を行いました。

対象者：学校の教師・教職希望の学生を中心に、広く一般市民なども対象

日時：9/3、10/4、11/5、12/3（月）19:30-21:30・・・計4回

場所：富士見文化会館

参加者：述べ72名

活動スタッフ：述べ8名（担当者3名）

内容：「不登校の問題①-子どもと学校の関係」（山田哲也氏〔宮城教育大〕）

「不登校の問題②-子どもと家族の関係」（同上）

「入門期における国語指導について」（内藤順子氏〔小学校教諭〕）

「算数の授業-水道方式とは」（武内敏子氏〔元小学校教諭〕）

様子・反省・課題：徐々に参加者も増え始めています。特に、小学校の若手の先生方の参加が多く、意見交換の場でも、それぞれの実践に基づいた意見が活発に交わられました。一方で中学校の先生方の参加は、まだ少ないです。研究会の情報を様々な場で伝えていければと思います。

②授業研究会

活動概要：活動報告：実際の授業を見て、授業の方法、子どもの捉え方、教材の準備の問題など全教科にわたって取り上げています。月2回（土曜日）にすたんどばいみの小学生5・6年生を対象に授業を行い、それを見ていただいて研究会に参加していただく形式です。

対象者：教師・教職希望の大学生などを中心に、広く学校の授業に関心のある方

<授業実践>

日時：9/15, 29、10/6, 20, 27、11/17, 24、12/8, 15（土）18:00-20:00・・・計9回

場所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」会議室

参加者：対象児童延べ45名、参観者延べ72名

<研究会>

日時：10/1, 22、11/26、11/17（月）19:30-21:30・・・計4回

場所：富士見文化会館その他

参加者：延べ41名

活動スタッフ：延べ35名（担当スタッフ4名）

内容：社会の授業①商品のコスト②地図の読み方

国語の授業①「くじらの飲み水」②「これはもう〇〇じゃないじゃないか」

算数の授業①水道方式による文章題のとき方②三角形・四角形の面積

美術の授業①デカルコマニー②スパッタリング、自然と光と水が作る世界

様子・反省・課題：授業を行っていただく先生方については熱心に教材を吟味し、準備をしていただき、子どもたちの興味や関心を集めるような授業をしていただいています。ただ、子どもたちが継続的に常に参加できる状態ではない（地域のお祭り等で参加者の数が変わってきてしまうこともある）ので今後それをどう授業に参加させていくのかが反省点でもあり課題です。また、授業者については中学校の先生が行うことが多かったため今後は小学校の先生にも是非、授業をしていただきたいと思います。

③教育講演会

活動概要：教師、保護者等を対象として、現在の教育問題を考えるための講演会を企画します。

様子・反省・課題：本年度は講演会の開催はありませんでしたが、次年度の設立記念講演

会開催に向けて企画検討を行いました。

④教師相談

活動概要：子どもたちが学習に興味を持ってくれるにはどうしたらよいのだろうか、子どもたちの日常のありようを保護者に理解してもらうにはどうしたらよいのかなど、現場の教師の持つ様々な悩みの相談に応じます

様子・反省・課題：本年度の相談はありませんでした。現場の先生達は様々な悩みを持っていますので、相談のできる場所を知ってもらうことと、相談しやすい体制を考えたいと思います。

2) 学校支援部

①調査援助

活動概要：学校や先生方が企画する調査について、調査設計から調査分析に至るまで、幅広く支援する活動を行っています。本年度は1件の相談にお答えしました。

対象者：学校および教師

日時：11/17日(土) 21:00-23:00・・・計1回

場所：当該学校

参加者：述べ2名

活動スタッフ：述べ1名

内容：統計ソフトSPSSを使ってのカイ二乗検定と主成分分析の方法を支援

様子・反省・課題：学校における調査活動は以前に比べると行われる傾向にはあるものの、まだ積極的な取り組みには至っていないためか援助の依頼も少ないです。今後、調査に基づいた教育活動の必要をアピールする機会をもっていきたいと考えます。

②教育ボランティア

活動概要：学校の要請にしたがって、ボランティアが教師や子どもたちの援助を行い、直接学校のお手伝いをしました。本年度は、中学校から1件の相談があり、転入してきた外国人生徒の担任教師の要請に応じて、通訳や生徒の登校支援を行いました。

対象者：学校および教師

日時：9月15回、10月4回、11月2回、12月1回・・・計22回

場所：当該学校および生徒自宅

参加者：延べ44名(内大人22名、子ども[高校生以下]22名)

活動スタッフ：延べ49名(担当スタッフ11名)

内容：住所の特定、登校付き添い、授業・行事・面談の通訳、生徒の相談対応

様子・反省・課題：外国人生徒の受け入れのケースに対応しましたが、この支援によって、当初は学校を休みがちで授業にも参加できなかった生徒が、安定して登校し授業に参加できるようになりました。この件を通じて明らかになったのは、国際教室がない学校が外国人生徒を受け入れることの難しさです。担任の先生はた

だでさえ多忙な中で当該生徒を丸抱えしなければならない状態にあり、どこまで学校として、担任として当該生徒の問題に介入できるのか、その判断の材料をどこに求めてよいのかに戸惑っているように見えました。今回ボランティアに入った通訳は当該生徒と同じ国籍で日本の学校の経験があり、その立場から積極的に当該生徒や家族に連絡を取って相談に応じたり、状況判断をしてきていたので、そのことが先生とのやり取りの中で支援プランの構築を可能にしたと思います。教師や学校を外部から入って支援することの可能性と重要性が、今回のケースから再確認することができました。

③ホームページ支援

活動概要：ホームページ立ち上げおよび情報発信の支援を行います。具体的には、CMS(コンテンツ・マネジメント・システム)の導入等を支援し、学校がWebを通じた情報発信の基盤をつくります。また、学校の情報発信の体制に関するコンサルティング支援を行い、それぞれの学校にあった形での無理のない体制づくりと情報発信ポリシー策定をサポートします。

様子・反省・課題：本年度は、実際の支援活動への要望はなく、「Ed.ベンチャー」のホームページおよびスタッフブログを作成しました。これらのサイトは、支援活動で実際に用いる技術を採用し、依頼のあった学校にサンプルとして提示できるような設計としました。

2. 外国人支援活動

1) 大人支援部

①生活相談

活動概要：外国人の生活上の様々な相談に応じます。

様子・反省・課題：本年度は、相談はありませんでした。今後、日本語教室の様子などを聞きながら、教室の中で対応できない問題などがあれば相談に応じていきたいと思っています。

②日本語教室

活動概要：日常生活を中心とした日本語を学習する。

対象者：外国人のお父さん、お母さん

＜お父さんのための日本語教室＞

日時：毎週土曜日 19:00-21:00・・・計12回

場所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」 和室1

参加者：延べ24名

活動スタッフ：延べ30名(担当スタッフ2名)

内容：生活上必要な日本語会話、読み書きの学習

様子・反省・課題：当初水曜日に開講していたが、受講者の勤務・仕事の関係から土曜日に変更しました。曜日の決定は重要です。課題は受講者が少ないことです。特に「お父さんのための日本語教室」は今、男の人が全く来ていません。男の人

が参加してこない点については、分析する必要があります。彼らの要望は、やはり男女別ということと、能力別ということであるが、要望を受け入れれば、参加者が増えるのか問題であると考えます。

<お母さんのための日本語教室>

日 時：毎週日曜日 10:00-12:00・・・計 11 回

場 所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」 会議室

参加者：延べ 46 名

活動スタッフ：延べ 15 名（担当スタッフ 4 名）

内 容：生活上必要な日本語会話、読み書きの学習

様子・反省・課題：講師は 4 人が一堂に会う機会がないので、それぞれが考えた内容で行っています。参加してくださる方はそのことを承知してきてくださっているのですが、これでいいのかななどの思いはあります。3 月で辞めるスタッフの後任者を探すのが当面の課題です。来て下さっている方は本当に熱心に 2 時間を過ごされていきます。講師が一方的に進めるのではなく、一人ひとりに答えていただくように心がけています。日本に長く住んでいる方が大部分ですので、おおよその会話はできていますので、正しくフォーマルな話し方はこうであることを身につけていただくこと、日本語の表記、読みも覚えていただくことをねらいにしています。質問もたくさんあります。また、きょうは仕事だったのですが、勉強したいので休んできましたという方もおります。ある講師はその日の最後にアンケート（今日の内容はどうだったか、また次どんな内容にしてほしいか等）を取り、次回の内容を考える参考にしています。今までに何人か来日して日の浅い方が見えたことがありましたが、一人ではその方にとって十分な対応ができないことがありました。その日、その日で参加者の数も様々ですのでいたしかたないのかとも思うのですが……。来てよかった、次も……と思える教室の運営をしていかなければならないと考えています。

2) 子ども支援部（すたんどばいみー）

活動概要：外国人の子どもたちが集まって自治的な運営を行っている当事者団体「すたんどばいみー」が行う活動です。

様子、反省、課題：すたんどばいみーの活動は、主に 9 人の運営メンバーと日本人スタッフとで行ってきました。それに加え昨年度からは、学校現場で子どもたちと接している先生方が定期的に活動に参加してもらいました。

まず、小学生教室では低学年（就学前も含む）と高学年にわけて学習をみています。まず、低学年の教室では、急に子どもの人数が増え、スタッフの手が足りない問題がありました。来ている子どもの多くは、親御さんが学習の心配をして連れてきます。一方、高学年の教室では下半期から教室に来る子どもが減りました。これに対して教室では、クリスマス会などのイベントを通して学習以外で子どもたちと向き合う機会を作りました。その結果、再度勉強にもくむようになりました。

小学生教室としては、学校の先生方の参加により勉強の教え方から授業形式、

教材選びなど多くの助言を頂いたことで、これまでスタッフが抱えていた悩みや課題が解決できました。それにより少人数のスタッフでも教室を運営することが可能となりました。外国人児童生徒にとって小学校段階での学習基礎がとても大事なため、そのため各学年で学習の目標を設定し授業の中で様々な工夫を試みてきました。言葉のハンディを乗り越える試みとして、読書やゲームなど、やり方を模索しながら行ってきました。

次に中学生教室では、週に2回教室を開いています。この教室は主に学習補充をしていますが、勉強の他にも「選択国際」という時間を設けて「外国人」である自分の事を考えたり、スポーツなどを通して生徒同士の交流を図っています。また、教室の運営を中学生たち自らで運営してもらうために、月に一回の中学生運営委員会を開いています。中学生たちは、1ヵ月の自分たちの様子を報告したり、自分たちがやりたいことやスポーツの種目をきめたり、イベント内容など学習面からイベント面までの内容を検討しています。例えば、イベントでは、8月に愛川ふれあいの村で2泊3日のキャンプにいきました。生徒の参加状況では、1年生や2年生の参加は定期的に参加していますが、3年生の参加が下半期には減少しました。

学習面で見られる問題としては、同じ学年の中において、生徒たちの学力の格差が顕著に表れていることです。一方で、学力を伸ばすことも大事ですが生徒間の縦の関係と横の関係が薄いという現状もあり、もっと話し合いの場の提供が必要だったと思いました。

続いて、母国語教室ではベトナム語教室の生徒が増えたため、生徒のレベルに合わせて3つのクラスに分けて行われました。中国語教室では、生徒の参加は定期的です。カンボジア語教室では、講師1名と大学生の生徒数名で勉強されています。他には、ラオス語教室とスペイン語教室がありますが、参加する生徒がいなかったため開催されませんでした。けれども、ラオス語とスペイン語を母国語とする子どもたちがいるので、教室自体はお休みとして参加したいという子どもがいたら、また再開しようと思っています。

現在の母国語教室の生徒参加傾向をみると、親が生徒に母国語を学ばせたいということで母国語教室へ参加させるという傾向がほとんどで、これからもこの傾向で生徒が増えると想定されます。これに対して講師が授業体制や内容の構成を変える必要性も出てくると思います。よって、今後は教材開発や他団体の母国語教室の見学をするなど新しい授業内容や形式、スキルを参考に新たな授業の展開をしていきたいと思っています。

これまで述べてきた教室は、すたんどばいみーの中では活発に展開されている幾つかの教室でしたが、他には必要に応じて教室を作って活動を展開してきました。その例としては、南米教室、中2学習補充教室や高校生教室2（特定の高校生に対する個別の教室）などがありました。また、大学生教室、高校生教室、TEOIC 教室など、運営メンバーが自分たちの英語学習や学校の勉強をするための教室がありました。

教室としては、以上のようになりますが、昨年度後半からは、すたんどばい

みーの活動運営経費の調達のために、運営メンバーによるフリーマーケットも開催されました。活動運営資金としては、これまで多くの支援をされてきましたが子どもたちの増加と状況に合わせて随時に新たな支援を展開するため経費の節約と調達が課題となりました。

最後に、一年間のすたんどばいみーの活動の教室全体を見ますと、活動に参加している小学生や中学生の児童生徒たちのほとんどが、彼ら・彼女らが通っている学校の荒れている様子を語る場面がありました。そのような学習環境の中において、どのように問題を乗り越えていくのかを先輩のスタッフからいろいろ聞いて、ある程度乗り越えることができ、段々落ち着いてきているように思います。

しかし、それはすたんどばいみーの中だけで見えた変化で、外国籍児童生徒の問題が減ってきたわけではなはありません。子どもたちからの話を聞くと、団地の中に居場所ない子どもたちが沢山いると思われます。そうした多くの子どもたちは、すたんどばいみーへの参加もしておらず、かつ地域や学校の「見えないところ」に置かれていっているようにも思われます。しかし、現状としてその子たちへの接触ができていません。これからの課題としては、学校に参加できず、なお地域の中を彷徨している子どもたちに何らかの形で接触または対応が必要と思われます。

<運営委員会>

日 時：9/13, 22(土)18:00-21:00、24(月)19:00-21:00、10/13, 27、12/8(土)18:00-21:00、12/15(土)15:00-18:00・・・計7回

場 所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」会議室、和室2

参加者：延べ85名(運営委員13名)

内 容：各教室の報告、運営上の問題点や子どもの様子の検討、イベントの検討、選択国際の内容検討、予定の確認など

①海外活動支援(フリーマーケット)

日 時：9/15(土)、11/3(土)、12/9(日)・・・計3回

場 所：明治公園、三ツ境、大和プロムナード

活動スタッフ：延べ8名(担当スタッフ5名)

内 容：将来的に途上国の物品の販売を目指して、本年度は試行的に身近で集めた不用品を販売して今後の可能性を探りました。

②各種教室

場 所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」会議室、和室、被服室、音楽室、視聴覚室、武道場

<小学生教室>

日 時：毎週土曜日 13:00-16:00・・・計16回

参加者：延べ256名(就学前幼児～小学校6年生)

活動スタッフ：延べ108名（担当スタッフ16名）

内 容：国語・算数を中心とした学習支援。教材は市販の学習教材の他、自主作成教材も使用。

<中学生教室>

日 時：毎週火・木・金曜日 18:00-21:00・・・計42回

参加者：延べ264名（中学生）

活動スタッフ：延べ201名（担当スタッフ13名）

内 容：中学校の学習・テスト前学習・高校受験学習支援、選択国際、スポーツ、会議

<高校生教室>

日 時：毎週日曜日 18:00-21:00・・・計12回

参加者：延べ22名（高校生、中学既卒生）

活動スタッフ：延べ23名（担当スタッフ3名）

内 容：高校の学習支援、テスト前学習

<大学生教室>

日 時：毎月第2土曜日 10:00-13:00・・・計4回

参加者：延べ9名（高校生、大学生）

活動スタッフ：延べ5名（担当スタッフ2名）

内 容：“Growing up in America :How Vietnamese Children Adapt to Life in the United State” (Min Zhou, Carl L. Bankston III. 1998) の購読

<TOEIC 教室>

日 時：毎週日曜日 19:00-21:00・・・計8回

参加者：延べ18名（大学生）

内 容：TOEIC 受験対策学習

<母国語教室>

日 時：毎週土曜日（第2除く）10:00-13:00、毎週日曜日 16:00-18:00・・・計25回

参加者：延べ151名（就学前幼児～大学生）

活動スタッフ：延べ47名（担当スタッフ7名）

内 容：ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、中国語、スペイン語の学習。会話と文字の読み書き中心（ラオス語、スペイン語教室は生徒不在のため休室中）。

<南米教室>

日 時：毎週土曜日 10:00-12:00・・・計12回

参加者：延べ16名（小学生～中学生）

活動スタッフ：延べ16名（担当スタッフ2名）

内 容：南米出身の児童生徒を対象とした学習支援。学校での学習内容定着度を自主作成テストを用いて把握、弱い学習内容を支援。

<音楽教室>

日 時：毎週日曜日 10:00-12:00 毎週水曜日 17:00-21:00・・・計30回

参加者：延べ123名（就学前幼児～小学生）

活動スタッフ：延べ30名（担当スタッフ1名）

内 容：楽譜の読み方、ピアノ演奏の入門

③イベント

<小学生クリスマス会>

日 時：12/15（土）12:30-14:30

場 所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」視聴覚室

参加者：39名（内子ども32名、大人7名）

活動スタッフ：13名

内 容：学年別の出し物。歌、楽器演奏、ダンス、手品、コントなど

<中学生お疲れ様会>

日 時：12/27（木）10:00-16:00

場 所：大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」調理室、視聴覚室

参加者：10名（中学生）

活動スタッフ：5名

内 容：ケーキとお好み焼きの調理、映画鑑賞

④進路相談・個別相談

日 時：9/20（金）、12/14（金）、12/29（土）・・・計3回

場 所：神奈川県立希望が丘高校、横浜市内喫茶店

参加者：延べ3名（中学既卒の高校進学希望者、高校生）

活動スタッフ：延べ6名（担当スタッフ4名）

内 容：高校受験のための付き添い、高校入学説明会付き添い、高校在学継続相談

3. 事務局の活動

活動概要：会の活動を遂行するための活動①外部からの問い合わせや依頼に対する対応、②各活動の掌握、③活動相互の連携補助 ④ホームページの更新 ⑤会の出納に関すること（会費の管理、活動費の管理）、⑥資料などの整理 ⑦活動報告会の設定、⑧会員管理などを行います。

日 時：平日 10:30-18:00

場 所：主にE d. ベンチャー事務所

スタッフ：3名（事務局長1名、会計1名、事務局員1名）

外部対応：1件（県保健福祉部子ども家庭課次世代育成班の「子育て支援プロジェクト」担当職員によるヒアリング）

4. 活動報告会の活動

活動概要：活動報告会を開催し、各活動に関する報告、活動間の連携に関する事項や活動推進上の諸問題の解決に関する事項を検討します。

日 時：9/17（月）19:30-22:00、10/21（日）、19:00-22:30、11/18、12/9（日）18:00-21:30

場 所：富士見文化会館

参加者：延べ42名（活動代表9名、監事1名、事務局3名、その他3名）

内 容：各活動の報告、活動上の課題の検討、総会議案の検討など。

5. 立ち上げ総会の開催

日 時：9/1（土）18:00-20:00

場 所：富士見文化会館

参加者：30名

内 容：E d. ベンチャー設立の報告、設立趣意の説明、活動内容の説明、会員募集の呼びかけなど